キャラクター名: ルナ・アウトデイ

プレイヤー名:

種族	人間	種族特徴	剣の加護/運命変転		
生まれ	軽戦士	性別	女	年齢	28歳
冒険者Lv	17	経歴	大きな肖像画を描いてもらった		
経験点	250		一人で暮らしていた時期がある		
			宮廷で噂になったことがある		

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	10	器用度	7	57	6	80 + 5	14
		敏捷度	6	76	6	98 + 1	16
体	7	筋力	8	52	12	79	13
		生命力	7	36		50	8
心	4	知力	4	80	6	94 + 1	15
		精神力	5	45		54	9

技能	Lv.	技能	Lv.
フェンサー	17		
スカウト	17		
エンハンサー	17		
グリモワール	17		

技能

	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本追加ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	17	31	33	30
シューター	0			

鎧と盾

		ランク	必要筋力	回避力	防護点
鎧	ドレンシアの堅忍鎧		20		6
盾				1	1
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				6	
回避技能	フェンサー		合計値	40	10

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
オーガモール	2H	30	3	2d+ 36	11	32	50										
				2d+													
				2d+													

一般装備品	(消耗チェック)
冒険者セット	○□□○□□
保存食(一週間分)	○□□○□□
2点魔晶石x125	○□□○□□
月光の魔符+3x125	○□□○□□
エタナールクロノグロス	○□□○□□
	○□□○□□

	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□

所持金 516310 G

預金・借金 G

制限移動	通常移動	全力移動
10 m	104 m	312 m

回避	防護点	HP
2d+ 40	10	103

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 0/×	2d+ 33

生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 27	2d+ 33	107

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
秘奥魔法	17	32			

戦闘特技

ルーンマスター	IB34 p	マルチアクション	IB39 p
トレジャーハント	2120p	足さばき	2-227p
ファストアクション	2123p	魔法拡大/数	IB39 p
影走り	2120p	心眼	FC27p
トレジャーマスター	3143p	ヒットアンドアウェイ	FC27p
匠の技	3143p		p
両手利き	IB32 p		p
二刀流	IB30 p		p
回避行動	IB29 p		p
命中強化	2-230p		p
魔力撃	IB39 p		p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
魔法文明語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術

キャッツアイ	姿勢補助
マッスルベアー	移動力増強
ビートルスキン	完全姿勢制御
ガゼルフット	不動の礎
リカバリィ	風乗りの靴
ジャイアントアーム	
デーモンフィンガー	
スフィンクスノレッジ	
ケンタウロスレッグ	
トロールバイタル	
ヘルシーボディ	
タイタンフット	
ストライダーウォーク	
ウェンディゴハイド	

名誉アイテム	点数
武具装飾品専用化	300
イレブンマント2	720
ダークドワーフコネ	100
野伏化	50

名誉点 所持 8160 /合計 9330

装備品		説明
頭		
耳		
顔		
首	子熊の爪	鎖状【マッスルベアー】を使用したとき、筋力ボーナスが追加で1点（合計3点）上昇します
背中	野伏イレブンマント2	生命・精神抵抗・生死+2
右手	知性の魔紋	
腰	再生のベルト	
足	アーティザンシューズ4	
その他	正しき信念のリング	

装備品	説明
疾風の魔紋	
左手 イレブン式「宗匠の魔紋」改三	

その他メモ

子爵家の家の長女として生まれた。ほかには妹が一人のみである。生来より子爵の家にふさわしくないほどの力量をもっており、外部の者のうち一部には危惧されていた。
そのため、あえて自分の全力を出すことなく家族とも距離を取り一人で過ごしていたが、若干のくすぶりを感じていた。
全力を出したいというくすぶり…ではない…
何か心を焼くほどの昂ぶりが味わいたい。それが得られるなら貴族の位など惜しくもない…
もとより、貴族の位など私を除いた者たちで好きに競えばいいという考えの持ち主であり、それゆえ、貴族が平民を虐げていることを理解できなかった。
そのようなどこか満たされない日々の中、自分に言い寄っていた貴族の一人…確か伯爵だっただろうか？そのものが戦場で立てた手柄話を自慢げに話していた。
ルナにとってはその貴族は自分の周囲を飛び回る羽虫のような存在だった。
うっとおしいがわざわざ殺すほどのことでもない…その程度だった。

自動失敗チェック

□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑮
□□□□⑳
□□□□㉕
□□□□㉚
□□□□㉟